

## 2026\_0421「ツツジの通勤路」日々の理科 4272号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

職場の構内にあるこの道は、春になると一変します。冬のあいだは落ち着いた緑に包まれていた空間が、いまはツツジの花で明るく彩られ、歩くだけで気持ちが軽くなるような風景になります。道の両脇には手入れの行き届いた植え込みが続き、淡いピンクや濃い紅の花が層をなして咲き誇っています。日差しを受けた花々は、まるで光を含んでいるかのように鮮やかで、この季節ならではの華やかさを感じさせてくれます。

この道は、多くの学生や子どもたちが行き交う場所でもあります。授業へ向かう足取りや、友人と語らいながら歩く姿が、春のやわらかな空気とよく調和しています。朝の時間帯には、まだ少し静けさの残る中を人々が通り、昼にはにぎわいが増し、夕方には再び落ち着きを取り戻す——その一日の変化も、この道の魅力の一つです。そしてここは、私自身の通勤路でもあります。日々同じ場所を歩いても、季節が変わるだけでまったく違った表情を見せてくれることに、ささやかな喜びを感じます。

さらにこの時期は、頭上からシジュウカラのさえずりが聞こえてきます。新緑の中を軽やかに飛び回りながら響くその声は、春の訪れを告げる合図のようです。ツツジの色彩と鳥の音色が重なり合うこの道は、単なる通路ではなく、季節を全身で感じられる小さな自然の回廊だといえるでしょう。

(2026年4月下旬／お茶の水女子大学構内)

